

**This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-143519

(43)Date of publication of application : 29.05.1998

(51)Int.Cl. G06F 17/30
G06F 12/00

(21)Application number : 08-293899 (71)Applicant : NEC CORP

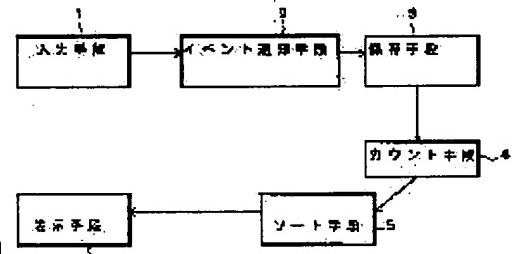
(22)Date of filing : 06.11.1996 (72)Inventor : FUJINO HIROKI

(54) URL ORDERING METHOD AND DEVICE THEREFOR

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To utilize the access result of a user in the access of the next time by taking out the number of times of the access to respective home pages and time information from input information and calculating the interest of the home page for the respective users for respective URLs(uniform resource locator) based on them.

SOLUTION: An event informing means 2 informs input from an input means (keyboard and a mouse, etc.) and a preservation means 3 stores the information of the URL of the home page and the access time relating to the access to the respective home pages of the user. A counting means 4 calculates the interest to the respective home pages accessed by the user, a sorting means 5 performs ordering so as to display the URLs corresponding to the calculated result of the interest and a display means 6 displays the sorted result of the URLs. Also, the respective users are provided with identification numbers and personal code numbers for identifying them.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 06.11.1996

[Date of sending the examiner's decision of

[rejection]

[Kind of final disposal of application other than
the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2842415

[Date of registration] 23.10.1998

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-143519

(43)公開日 平成10年(1998)5月29日

(51)Int.Cl.⁶
G 0 6 F 17/30
12/00

識別記号
5 4 5

F I
G 0 6 F 15/403
12/00
15/403
3 4 0 A
5 4 5 Z
3 8 0 C

審査請求 有 請求項の数2 O.L (全10頁)

(21)出願番号 特願平8-293899

(22)出願日 平成8年(1996)11月6日

(71)出願人 000004237
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号

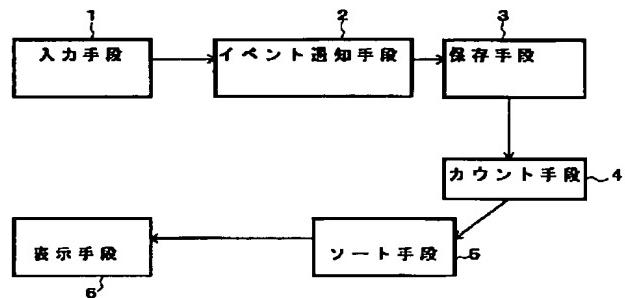
(72)発明者 藤野 博喜
東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株
式会社内

(74)代理人 弁理士 若林 忠

(54)【発明の名称】 URL順序付け方法およびその装置

(57)【要約】

【課題】 ユーザ自身が過去にアクセスしたホームページのアクセス興味度に応じてURLの順序付けること。
【解決手段】 インタネットを通じてホームページへアクセスすることのできる入力手段と、該入力手段の入力からアクセス時刻とアクセス回数を取り出して通知するイベント通知手段と、該イベント通知手段から通知される前記アクセス時刻とアクセス回数の情報を保存する保存手段と、該保存手段中に蓄積されている各URL情報別に、そのアクセス回数とそのタイムログからホームページ接続総時間とホームページ非接続総時間を算出し、ユーザの各ホームページへの興味度を算出するカウント手段と、該カウント手段で算出された興味度を用いてURL情報に対して順序付けを行なうソート手段と、該ソート手段で順序付けしたURL情報を表示する表示手段とを具備するURL順序付け装置。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 インタネットを通じてホームページへアクセスするアクセス時刻とアクセス回数の情報を保存し、該保存中に蓄積されている各URL情報別に、そのアクセス回数とそのタイムログからホームページ接続総時間とホームページ非接続総時間を算出し、ユーザの各ホームページへの興味度をカウントし、カウントして得られる興味度を用いてURL情報に対して順序付けを行なうことを特徴とするURL順序付け方法。

【請求項2】 インタネットを通じてホームページへアクセスすることのできる入力手段と、該入力手段の入力からアクセス時刻とアクセス回数を取り出して通知するイベント通知手段と、該イベント通知手段から通知される前記アクセス時刻とアクセス回数の情報を保存する保存手段と、該保存手段中に蓄積されている各URL情報別に、そのアクセス回数とそのタイムログからホームページ接続総時間とホームページ非接続総時間を算出し、ユーザの各ホームページへの興味度を算出するカウント手段と、該カウント手段で算出された興味度を用いてURL情報に対して順序付けを行なうソート手段と、該ソート手段で順序付けしたURL情報を表示する表示手段とを具備することを特徴とするURL順序付け装置。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 本発明の属する技術分野は、インターネットのWebアクセスおよびデータベースの登録／検索に関する技術に属する。また、ユーザインタフェースの向上にも関連した技術分野にも属する。

【0002】

【従来の技術】 近年、WWW (World Wide Web, 以下、Webと略称する) というブラウザを用いて種々コンテンツ（情報の内容）をブラウズさせる技術需要が高まっている。WWWでコンテンツをブラウズさせた画面のことをWebのホームページと言うが、このWebのホームページは、ブラウザ中で、任意のURL (Uniform Resource Locator) を指定することで得ることができる。URLとは、简单にはWebのホームページ (Webページ) の住所のようなもので、すべてのWebページは固有のURLを持っている。

【0003】 ユーザは、このURLを各々のブックマークに登録することができる。ブックマークとは「本のしおり」とでも言えるもので、Web (ブラウザ) で提供されているホームページをユーザが簡単に検索するためのユーザの登録機能の一つである。

【0004】 ユーザは、ブックマーク中に登録されたURLを参照することによって、URLを入力することなく、ホームページをWeb中にブラウズさせることができる。

【0005】 以上の一連の操作については、日経パソコ

ン1996年4月8日p248～p251、及び同1996年4月22日p228～p231を参照のこと。

【0006】 次ぎに、特開平3-67343号公報によれば、過去に蓄積されたデータ又は新規に蓄積しようとするデータに関するカウント方式、及びこれらからならかの属性を設けたデータベース装置に関する記載がある。

【0007】 これを従来例として、図面を用いて説明する。

【0008】 図5は、従来のデータベース装置の構成を示すブロック図である。

【0009】 図5を参照すると、従来例は、検索操作部51、検索処理部52、データ蓄積部53、重要度検出部54、アクセス頻度記憶部55などで構成される。

【0010】 検索操作部51は、データベースの検索指示及び検索結果の結果の表示を行なう機能を備えている。したがって、重要度の低い不要なデータは、削除されていく。検索処理部52は、検索照合を行なう機能を備えている。

【0011】 データ蓄積部53は、データベースとしてデータの登録日が付加されたデータを蓄積し、また、過去に検索されたデータの検索回数と出力回数とを該データの登録日と共に記録している機能を備えている。

【0012】 重要度検出部54は、検索データの各々の重要度を評価する機能を備えている。

【0013】 アクセス頻度記憶部55は、データのアクセス回数に関して算出を行うもので、プリンタ58を用いて印刷回数（出力回数）を記録する機能も備えている。

【0014】 次に、従来例の動作について図面を参照して説明する。

【0015】 図6は、従来のデータベース装置におけるデータベース検索時の処理手順を示すフローチャートである。

【0016】 検索操作部51のキーボード57などより適当な検索条件を入力する（ステップ101）。次に入力された検索条件に対して、検索処理部52はデータ蓄積部53のデータベースを検索し照合して（ステップ102）、判定を行なう（ステップ103）。照合に成功した場合、検索処理部52では対応するデータを抽出し、検索操作部51のディスプレイ56に表示する（ステップ104）。同時に重要度検出部54では、アクセス頻度記憶部55を照合して、先の抽出されたデータが既に記録されていればその検索回数を更新し、記録されていなければ該データを新規に記録してその検索回数を1とする（ステップ105、106）。なお、データ蓄積部53のデータには一般にその登録日が付加されており、アクセス頻度記憶部55では、新規の検索データを記録する場合に、検索回数=1とともにその登録日も記録する。

【0017】オペレータは、ディスプレイ56に表示されたいいくつかの検索データから所望データを選択し、プリンタ58でプリントする(ステップ107)。この選択されたデータが検索処理部2を通じて重要度検出部54に通知され、重要度検出部54はアクセス頻度記憶部55の該当データの印刷回数を更新する(ステップ108)。

【0018】次に、従来のデータベース装置における新規データの登録時の処理手順について図面にもとづいて説明する。図7は、従来例における新規データ登録時の処理手順を示すフローチャートである。

【0019】検索操作部51で「新規登録」を選択後、新規データの登録件数を入力する(ステップ201)。

【0020】検索処理部52ではデータ蓄積部53の空き領域があるか調べ(ステップ202)、空き領域があって登録可能ならば、そのままデータ登録処理を行なう(ステップ210)。しかし、データ蓄積部53に登録できる空き領域がない場合、データ登録日が古くて重要度の低いデータの削除処理をするかどうか、オペレータとの対話形式により聞いてくる(ステップ203)。もし、削除をしないならば、登録処理を終了させる。オペレータが「削除する」と指定すると、重要度検出部54では、アクセス頻度記憶部55を検索して、データの登録日が古く、重要度の低い順序に並べ換えて、対応するデータの見出しの部分をデータ蓄積部53より抽出して表にし、検索処理部52を介して検索操作部1のディスプレイ56に表示する(ステップ204)。重要度は、以下の式で定義する。

【0021】重要度=m×検索回数+プリント回数
ここで、m、nは、適当な定数でデータの総量、利用者数などによって重要度は変更可能である。

【0022】

【発明が解決しようとする課題】第1の問題点は、従来の技術においては、ブラウザを用いる際に、ブックマーク等でURLを『登録』する操作を行なっておけば、次のアクセスでは、URLの再入力をせずに、ブックマークで検索を行う方が効率的になる。しかし各ユーザーは、過去にアクセスしたホームページに対した興味の度合いに応じてのアクセスができないことである。

【0023】その理由は、現在のブラウザには、各ユーザー側から見て、各webに対するユーザー毎の興味度を表わす情報が何もないからである。

【0024】第2の問題点は、従来の技術においては、インターネットの各情報をアクセスし、各ホームページ検索のためのキーとなるURLの情報に関連してアクセスの度合いを数量化したものは存在しないことである。

【0025】その理由は、従来のブラウザでは、ユーザーの興味度の尺度となり得るパラメータを設定し、各ホームページへのユーザーのアクセスの興味度を尺度化できるものを設定していないためである。

【0026】本発明の第1の目的は、ユーザーがアクセスするホームページに興味情報を持たせ、ユーザーのアクセス結果を次回のアクセスに活かす手段を提供することである。

【0027】本発明の第2の目的は、その興味情報からユーザー自身が過去にアクセスしたホームページのURLをユーザーのアクセス興味度に応じて順序付けることによって、過去の検索項目をユーザー自身が整理し、選択するための幅を設ける手段を提供することである。

【0028】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記の従来の問題に鑑み、インターネットにおけるURLに関するWebユーザ利用の効率アップのため、入力手段から入力される入力情報から各々のホームページへのアクセス回数と時刻情報を取り出すイベント通知手段を備える。イベント通知手段で取り出されたホームページへのアクセス回数と時刻情報を基に各々のURLに対し、各ユーザー毎にホームページの興味度を算出するカウント手段を備える。

【0029】そのカウント方法は、以下に記載する方法で行なう。あるユーザーが、あるURLに対してホームページアクセスする時、接続開始時刻をT_{si}、接続終了時刻をT_{ei}とする。各ホームページへの接続総時間をα、非接続総時間(接続していない時間)をβとすると

$$\alpha = \sum (T_{ei} - T_{si})$$

$$\beta = \sum (T_{si} - T_{e(i-1)})$$

となり、カウント手段で定義される各ホームページへのアクセス興味度(I)は以下の式で構成される(s、tは任意の実数値)。

【0030】I = s × (ホームページアクセス回数) + t × (α + β)

なお、URLと時刻に関しては、URLに対応し、時刻とのマッピングを行なわせる方式で保存する保存手段とを備える。

【0031】

【発明の実施の形態】本発明の実施例について図面を参照して詳細に説明する。

【0032】図1は、本発明の実施例の構成を示すブロック図である。図1に示されるように、本実施例であるURL順序付け装置は、キーボードやマウス等の入力機能を備えた入力手段1と、入力手段1からの入力を通知するイベント通知手段2と、ユーザーの各ホームページに対するアクセスに関し、ホームページのURLとアクセス時刻との情報を蓄積している保存手段3と、ユーザーがアクセスした各ホームページに対する興味度を算出するカウント手段4と、興味度の算出結果に応じてURLの表示を行なうための順序付けを行なうソート手段5と、URLのソートされた結果の表示を行なう表示手段6とから構成される。各ユーザーは、それぞれを識別するための識別番号、暗証番号等を有している。

【0033】次に前記の各手段について個々に説明する。

【0034】イベント通知手段2は、入力手段1から入力された入力の通知によって各ホームページへのアクセス開始時刻とアクセス終了時刻と各ホームページのURLとを通知する手段として構成されている。

【0035】保存手段3は、イベント通知手段2によつて各URL別に通知される情報を保存蓄積する機能で構成されている。

【0036】次にカウント手段4は、保存手段3に蓄積されている各ホームページのURL、各ホームページへのアクセス開始時刻、アクセス終了時刻及びアクセス回数から、ホームページの接続時間及びホームページの非接続時間とを算出し、各ホームページへのユーザの興味度を算出する機能を有している。

【0037】ソート手段5は、カウント手段4によつて算出された各ホームページに対するユーザの興味度からユーザがアクセスしたことのあるWebサイト(ホームページ)に限って、それら各々の興味度を順序付ける機能を有している。

【0038】表示手段6は、ソート手段5によつてユーザの過去にアクセスしたことのあるホームページへの興味度を順序付けた結果を表示する機能を有している。

【0039】次に、本発明の実施例の動作について図面を参照して説明する。

【0040】図2は、本実施例のURL順序付け処理手順を示すフローチャートである。図4は本実施例における保存手段の中身の一例を示す図である。

【0041】入力手段1によつて、イベント通知手段2は、各ホームページを構成するURLに応じて、時刻情報と接続回数との入力を得ることができる。

【0042】このイベント通知手段2によつて、時刻情報である接続開始時刻(S)と接続終了時刻(E)とは、各ホームページのURLと対応付けられ、保存手段3で保存される。保存される情報は、アクセス時刻と、URL情報である。それらの情報は、アクセスを繰り返すことで、ログ情報的に集計されている(ステップ21)。なお、URLは各々の接続開始時において記載されるのみであり、一度目にホームページにアクセスした際には、どのURLに関するヘッダに1と数値を記す(図4(A)参照)。同じホームページへの2回以上の再度アクセスの時には、保存情報のヘッダに記載される数値が異なり、アクセス回数が記載される(図4(B))。

【0043】保存手段3に保存された時刻情報とアクセス回数から、カウント手段4にてユーザの各ホームページに関する興味の度合いを示す興味度が算出される(ステップ22)。あるユーザが、あるURLに対してホームページにアクセスする時、接続開始時刻をT_{si}、接続終了時刻をT_{ei}とする。各ホームページへの接続総時間

をα、非接続総時間(接続していない時間)をβとする

$$\alpha = \sum (T_{ei} - T_{si})$$

$$\beta = \sum (T_{si} - T_{e(i-1)})$$

となり、カウント手段4で定義される各ホームページへのアクセス興味度(I)は以下の式で構成される(s、tは任意の実数値)。

$$I = s \times (\text{ホームページアクセス回数}) + t \times (\alpha + \beta)$$

カウント手段4は、この興味度Iを各ユーザのWeb(ホームページ)に対する興味の尺度として算出する。

【0045】このカウント手段4で算出された各ホームページへの興味度を用いてソート手段5では、ユーザが過去にアクセスの経験のある各ホームページに関して興味の度合いをURL別に順序付けされる(ステップ23)。

【0046】ソート手段5でユーザの興味度に応じURL別にソートされた結果は、表示手段6で順序付けられて表示される(ステップ24)。

【0047】次に、本発明の実施例における興味度を算出する処理手順について説明する。図3は、本実施例の説明を行なう際に用いた興味度を算出する処理手順を示すフローチャートである。

【0048】入力手段1でキーボードやマウスなどの入力機器を用いて、ホームページへのアクセスのためのトリガをたてる(ステップ31)。そのトリガによつて、予めマシン中に設定されているタイマ時刻を時刻情報として得る。従って図4に示すように各URL別にホームページにアクセス開始した時刻をアクセス開始時刻として取り出す。アクセス終了時刻も、同様にホームページに対して別のURLをアクセスし始めた時刻または、完全にホームページのアクセスを終了した時刻を記録するようとする。

【0049】得られるホームページのURLにわたる時刻情報を用いてイベント通知手段2では、各ホームページを構成するURLに応じて、時刻情報と接続回数との入力を得ることができる。

【0050】このイベント通知手段2によつて、時刻情報である接続開始時刻と接続終了時刻とは、各ホームページのURLと対応付けられ、図4に示すように保存手段3で保存される。

【0051】保存手段3は、ハードディスクや、PD等の記憶機器を用いる。保存手段3で保存される情報は、アクセス時刻とURL情報である。それらの情報は、アクセスを繰り返すことで、ログ情報的に集計されている(ステップ32、33、34)。なお、URLは各々の開始時においてのみ記録される。図4に示すように、一度目にホームページにアクセスした際には、どのURLに関してもヘッダに1と数値を記す。同じホームページへの2回以上の再度アクセスの時には、保存情報のヘッ

ダにつける数値が異なり、アクセス回数が記載される。ユーザが再々度と同じURLをアクセスすることでその数値が大きくなり、それより以前にアクセスした回数分の回数情報はまとめられる。アクセス回数の集計を行なう際の計算効率を高める。

【0052】保存手段3に保存された時刻情報とアクセス回数から、カウント手段4にてユーザの各ホームページに関する興味の度合いを示す興味度が算出される(ステップ35)。

【0053】あるユーザが、あるURLに対してホームページにアクセスする時、接続開始時刻をT_{si}、接続終了時刻をT_{ei}とする。各ホームページへの接続総時間をα、非接続総時間(接続していない時間)をβとすると

$$\alpha = \sum (T_{ei} - T_{si})$$

$$\beta = \sum (T_{si} - T_{e(i-1)})$$

となり、カウント手段4で定義される各ホームページへのアクセス興味度(I)は以下の式で構成される(s、tは任意の実数値)。

【0054】I = s × (ホームページアクセス回数) + t × (α + β)

この興味度Iを各ユーザのホームページに対する興味の尺度として算出した。このように、興味度は、ユーザが任意にホームページへのアクセス回数とホームページの接続時間とを任意に重み付けして加えたものである。

【0055】カウント手段4でこの興味度Iを図4に示されているようなユーザが過去にアクセスしたホームページ全てに関して算出する。

【0056】次に、ソート手段5で、ユーザが過去にアクセスの経験のある各ホームページに関して先ほど算出された興味度IをURL別に大きい順、または小さい順に順序付けて保存する。

【0057】ソート手段5でユーザの興味度に応じURL別にソートされた結果は、ディスプレイなどの表示手段6でユーザからは順序付けられて表示されている。

【0058】次に本発明の第2実施例について図面を参照して詳細に説明する。

【0059】図4(A)、(B)を参照すると、ユーザがあるブラウザを用いる際に、ホームページの検索は、過去に一度出現したものを探索する場合と、過去に一度も検索していないものとの2種類の検索の事例が挙げられる。

【0060】第2実施例では、過去に一度出現したものを探索する際に、図4(C)に示すように、各ホームページのURLにアクセスし始める各アクセス開始時刻Sに対して数値をつけて分類する。

【0061】図4(A)では、どのURLも異なる場合であり、初めてデータが作成されているということで、アクセス開始時刻の前に添付されている数字は全て1である。

【0062】ところが、図4(B)では、http://www.

cl.necには2回アクセスしていることがわかり、この場合は、同じURLでも最後にアクセスした件のみにアクセス開始時刻Sに対応してアクセス回数を示す数値を残すこととする。従って、この場合、http://www.cl.necには、アクセス回数2が残る。

【0063】それによつて過去にアクセスした情報に関する部分(1というヘッダが添付されている部分)は削除され、図4(B)ではなく図4(C)のようになる。

【0064】第2実施例の保存手段のデータ構成は、常にアクセス回数、過去のうち各URL別で最も現在に近いアクセス開始時刻とアクセス終了時刻のアクセスログのみで構成される(図4(C)参照)。

【0065】

【発明の効果】第1の効果はユーザは最も良くアクセスしているホームページが常にわかり、効率良くなどりつくことができるることである。

【0066】第2の効果は、アクセスしたホームページに対して順序付け分類を設けたことによって、ユーザがうろ覚えであっても、検索速度を速める又は検索効果を高める等の効果が期待される。

【0067】その理由は、各ホームページのアクセスに関して、アクセス回数とアクセス時間(これには、各ホームページへの接続時間の統計又は各アクセス後に次にアクセスを開始するまでの時間の統計との各々を考える。)から算出される各ホームページへのユーザのアクセス総回数に依存してURLの順序を変更して表示することを可能にしているからである。

【0068】第3の効果は、ある程度のディスク容量以上に多くの容量を要求しないことである。

【0069】その理由は、URLに関して複数回、アクセス開始時刻とアクセス終了時刻が登録される際には、過去のログは消してしまうからである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のURL順序付け装置の構成を示すブロック図

【図2】URLの順序付け処理手順を示すフローチャート

【図3】本発明での興味度算出の処理手順を示すフローチャート

【図4】(A)(B)(C)本発明でのURLと時刻との登録例を示す図

【図5】従来のデータベース装置の構成を示すブロック図

【図6】従来例におけるデータベース検索時の処理手順を示すフローチャート

【図7】従来例における新規データ登録時の処理手順を示すフローチャート

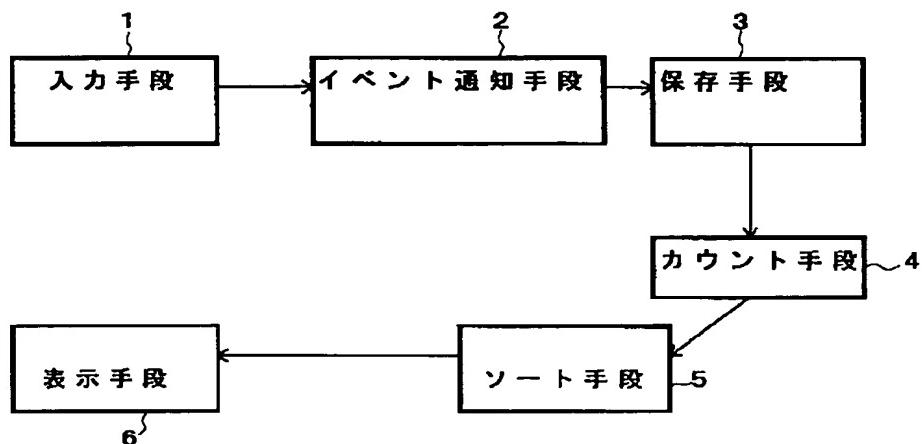
【符号の説明】

1 入力手段

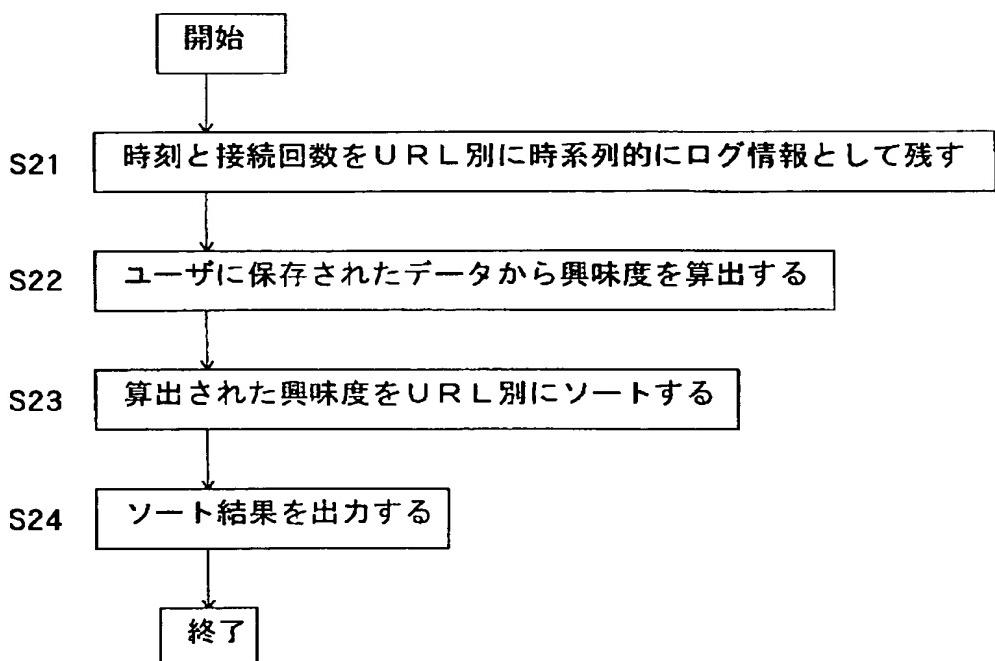
2 イベント通知手段

3	保存手段	5 3	データ蓄積部
4	カウント手段	5 4	重要度検出部
5	ソート手段	5 5	アクセス頻度記憶部
6	表示手段	5 6	ディスプレイ
5 1	検索操作部	5 7	キーボード
5 2	検索処理部	5 8	プリンタ

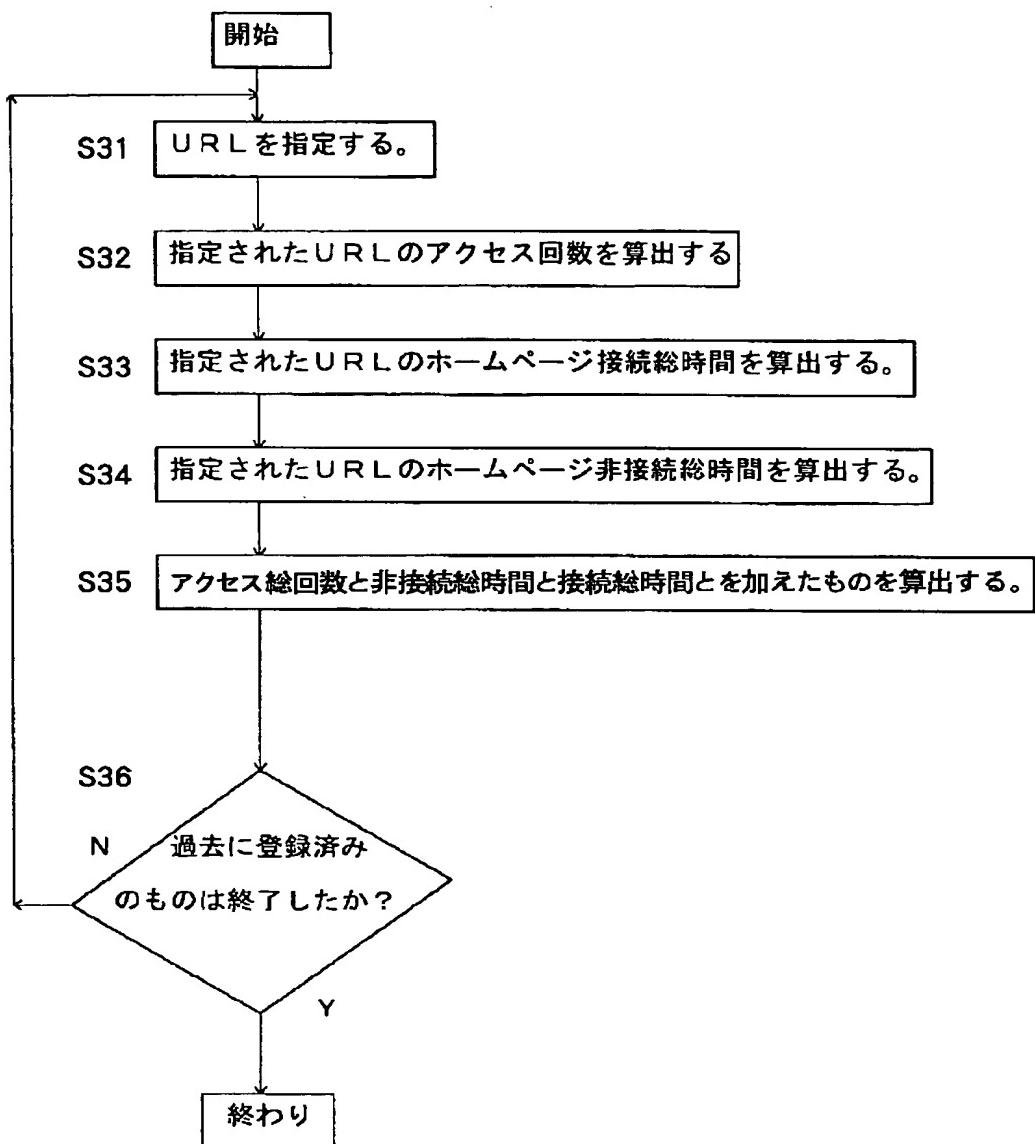
【図1】



【図2】



【図3】



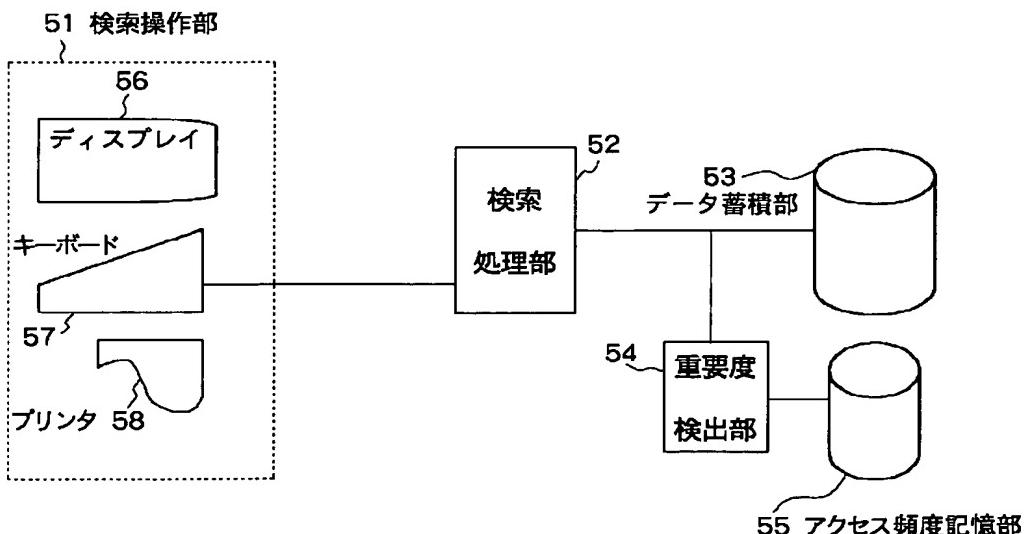
【図4】

	アクセス時刻(タイムログ)	URL
(A) 1	S : '96 8/28/0:45 E : '96 8/28/0:55	http://www.cl.nec
	S : '96 8/29/1:15 E : '96 8/29/1:20	http://www.pccrd.nec
	S : '96 8/29/2:30 E : '96 8/29/2:45	http://www.pa.nec

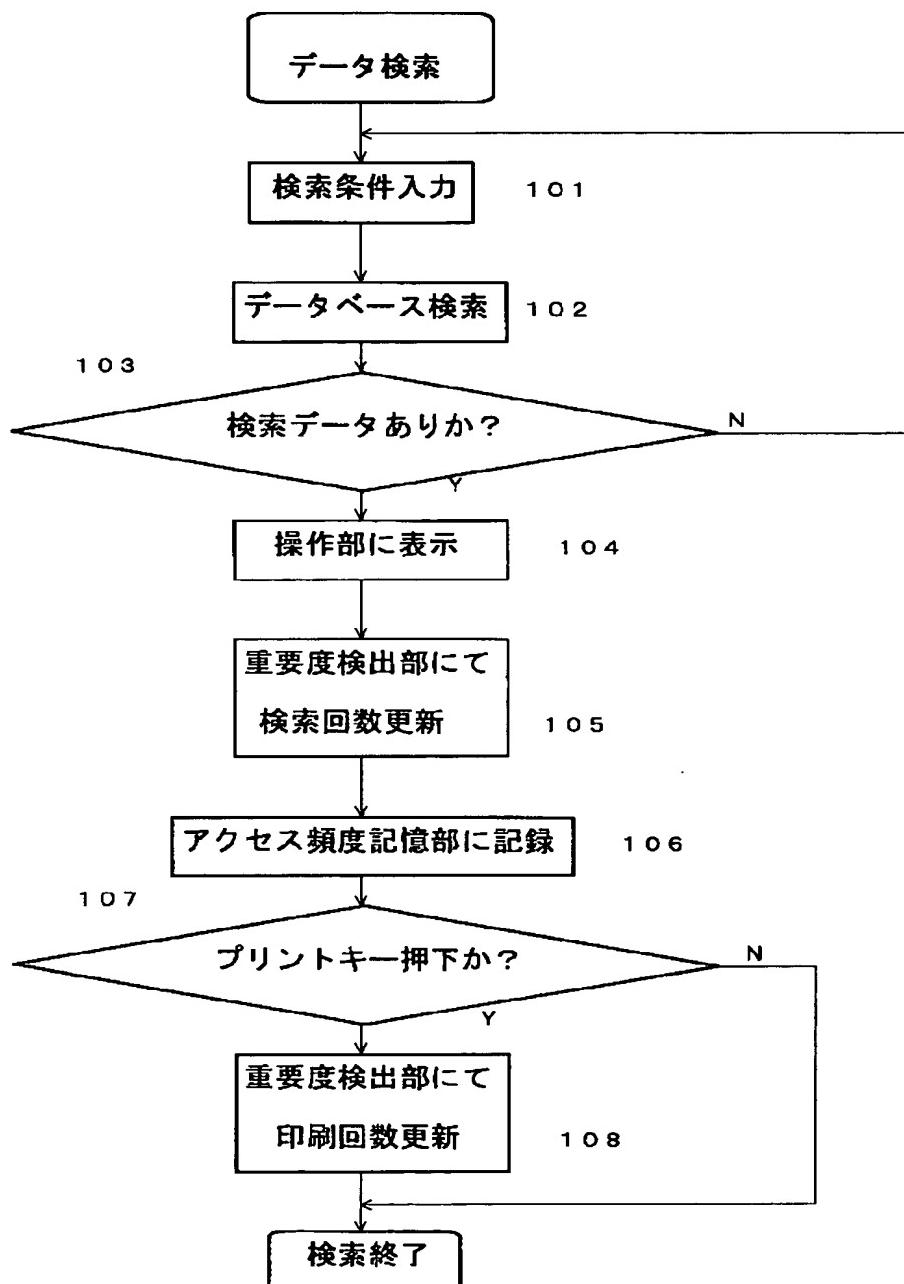
	アクセス時刻(タイムログ)	URL
(B) 1	S : '96 8/28/0:45 E : '96 8/28/0:55	http://www.cl.nec
	S : '96 8/29/1:15 E : '96 8/29/1:20	http://www.pccrd.nec
	S : '96 8/29/2:30 E : '96 8/29/2:45	http://www.cl.nec

	アクセス時刻(タイムログ)	URL
(C) 1	S : '96 8/29/1:15 E : '96 8/29/1:20	http://www.pccrd.nec
	S : '96 8/29/2:30 E : '96 8/29/2:45	http://www.cl.nec

【図5】



【図6】



【図7】

